

昨年、本格デビューした「富富富」は、消費者から「甘くて大変おいしい」と高評価を得ています。2年目となる本年は勝負の年です！
高品質で美味しい「富富富」の生産に努めましょう！！



1 育苗管理の徹底

- ・育苗管理については、営農情報第2号を確認し、適切に管理を行いましょう。
- ・高温で軟弱徒長苗とならないように、ハウス内の換気を徹底し、がっしりとした苗質に仕上げましょう。

2 適切な田植作業の実施

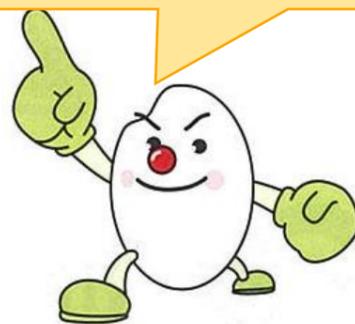
- ・育苗は田植への予定に合わせて（育苗日数 20 日間以内）行い、換気の徹底により健全な苗に仕上げましょう。
- ・極端な早植え・遅植えはくず米の増加や収量の低下を招くので、田植は5月15日を中心（5月6日～20日）に実施しましょう。
- ・苗箱施薬剤の使用にあたっては、登録内容を遵守するとともに、必ず成分数を確認しましょう。
- ・苗を購入している場合は、種子消毒剤・苗箱施薬剤の有無を必ず確認しましょう。
- ・栽植株数は70株/坪以上、植付本数3～4本/株、植付深さ3cm程度となるよう、田植機を調整しましょう。
- ・本年からは、粘質土においても基肥一発肥料を利用できます。
- ・基肥施用量はコシヒカリの2割減を基本としてください。

表1 施肥基準

土壌区分	基肥一発体系		分施体系	
	肥料名	施肥量	肥料名	施肥量
砂壤土	富富富専用 全量基肥肥料	30kg/10a	基肥 206	27kg/10a
			基肥 555	22kg/10a
壤土 黒ボク		25kg/10a	基肥 206	21kg/10a
			基肥 555	17kg/10a
粘質土		22kg/10a	基肥 206	19kg/10a
			基肥 555	16kg/10a

※大豆あと水田や地力増進作物のすき込み等を行った水田では分施栽培とし、「大豆あとコシヒカリ」の栽培に準じて基肥量を減らしてください。

左表は基準です。
昨年度も富富富を栽培した経営体については、その結果を考慮して、施肥量を決定しましょう。



3 初期の水管理の徹底

- ・田植後3日間程度はやや深水にして活着を促進し、活着後は浅水管理により水温の上昇に努め、分げつの発生を促進しましょう。
- ・除草剤の使用にあたっては、登録内容を遵守するとともに、必ず成分数を確認しましょう。また、除草剤の効果を上げるために散布後5日間は5cm程度の水深を保ち、散布後7日間は落水しないでください。

表2 雑草防除体系例

区分	薬剤名	使用時期	使用量	対象雑草	成分数
初期剤	マーシット1キロ粒剤 漏生初対策として重要です！	移植後3～5日 まで	1kg/10a	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ミズガヤツリ	1
一発処理剤	ウィナー1キロ粒剤51 (ウィナーLジャンボ)	初期剤散布 7～10日後	1kg/10a (500g/10a)	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ミズガヤツリ、 ウリカワ等	3

※上記以外の除草剤を使用する場合は、各営農経済センターにご相談ください。

【ポイント】

- 田植は5月15日（5月6日～20日）を中心に実施する。
- 穂数380～400本/m²を確保するために、栽植株数は70株/坪以上を基本とする。
- 適正粒数に誘導するために、基肥施用量は「コシヒカリ」の2割減を基本とする。
- 初期分げつを確保するために、活着後の浅水管理を徹底する。
- 化学合成農薬（殺虫殺菌剤及び除草剤）の成分使用回数を12以内（県慣行レベルの3割減）とする。

※裏面の病害虫・雑草防除体系例を参照ください。

病害虫・雑草防除体系例

化学合成農薬（殺虫殺菌剤及び除草剤）の成分使用回数は12以内

平成31年4月23日

JAアルプス「富富富」ブランド化推進協議会

<一般タイプ>

【粉剤体系】

区分	薬剤名	使用時期	使用量等	対象病害虫・雑草	成分数	
病害虫防除	種子消毒	モミガードC水和剤	浸種前	200倍液 (種子10kgに対し水20ℓ、薬剤100g)	ばか苗病、もみ枯細菌病、褐条病、 苗立枯細菌病、苗立枯病(トリコデルマ菌、 リゾープス菌、フザリウム菌)等	2
	苗箱施薬	ルーチンアドスピノ 箱粒剤	播種時～ 移植当日	50g/箱	いもち病、イネミズゾウムシ、 イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、 フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ	2
		Dr.オリゼ フェルテラ粒剤	緑化期～ 移植当日			
	本田防除	ラブサイドキラップ 粉剤DL	穂揃期	4kg/10a	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	2
スタークル粉剤DL		傾穂期	3kg/10a	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	1	
雑草防除	初期剤	マーシエット 1キロ粒剤	移植後3～5 日まで	1kg/10a	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ミズガヤツリ	1
	一発 処理剤	ウィナー1キロ粒剤51 (ウィナレージャンボ)	初期剤散布 7～10日後	1kg/10a (500g/10a)	水田1年生雑草、マツバイ、ホタルイ、 ミズガヤツリ、ウリカワ等	3
合計 11成分						

【液剤体系】

区分	薬剤名	使用時期	使用量等	対象病害虫・雑草	成分数	
病害虫防除	種子消毒	モミガードC水和剤	浸種前	200倍液 (種子10kgに対し水20ℓ、薬剤100g)	ばか苗病、もみ枯細菌病、褐条病、 苗立枯細菌病、苗立枯病(トリコデルマ菌、 リゾープス菌、フザリウム菌)等	2
	苗箱施薬	ルーチンアドスピノ 箱粒剤	播種時～ 移植当日	50g/箱	いもち病、イネミズゾウムシ、 イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、 フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ	2
		Dr.オリゼ フェルテラ粒剤	緑化期～ 移植当日			
	本田防除	ラブサイドフロアブル キラップフロアブル	穂揃期	1,000倍液 150ℓ/10a	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	2
スタークル液剤10		傾穂期	1,000倍液 150ℓ/10a	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	1	
雑草防除	初期剤	マーシエット 1キロ粒剤	移植後3～5 日まで	1kg/10a	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ミズガヤツリ	1
	一発 処理剤	ウィナー1キロ粒剤51 (ウィナレージャンボ)	初期剤散布 7～10日後	1kg/10a (500g/10a)	水田1年生雑草、マツバイ、ホタルイ、 ミズガヤツリ、ウリカワ等	3
合計 11成分						

<省成分タイプ>

【粉剤体系】

区分	薬剤名	使用時期	使用量等	対象病害虫・雑草	成分数	
病害虫防除	種子消毒	テクリードC フロアブル	浸種前	200倍液 (種子10kgに対し水20ℓ、薬剤100cc)	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、 ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、苗立枯病 (リゾープス菌、トリコデルマ菌)	1
	苗箱施薬	フェルテラ箱粒剤	播種時～ 移植当日	50g/箱	ニカメイチュウ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、 イネツトムシ、イネドロオイムシ、 イネミズゾウムシ	1
	本田防除	ラブサイドキラップ 粉剤DL	穂揃期	4kg/10a	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	2
		スタークル粉剤DL	傾穂期	3kg/10a	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	1
雑草防除	初期剤	マーシエット 1キロ粒剤	移植後3～5 日まで	1kg/10a	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ミズガヤツリ	1
	一発 処理剤	ウィナー1キロ粒剤51 (ウィナレージャンボ)	初期剤散布 7～10日後	1kg/10a (500g/10a)	水田1年生雑草、マツバイ、ホタルイ、 ミズガヤツリ、ウリカワ等	3
合計 9成分						

【液剤体系】

区分	薬剤名	使用時期	使用量等	対象病害虫・雑草	成分数	
病害虫防除	種子消毒	テクリードC フロアブル	浸種前	200倍液 (種子10kgに対し水20ℓ、薬剤100cc)	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、 ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、苗立枯病 (リゾープス菌、トリコデルマ菌)	1
	苗箱施薬	フェルテラ箱粒剤	播種時～ 移植当日	50g/箱	ニカメイチュウ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、 イネツトムシ、イネドロオイムシ、 イネミズゾウムシ	1
	本田防除	ラブサイドフロアブル キラップフロアブル	穂揃期	1,000倍液 150ℓ/10a	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	2
		スタークル液剤10	傾穂期	1,000倍液 150ℓ/10a	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	1
雑草防除	初期剤	マーシエット 1キロ粒剤	移植後3～5 日まで	1kg/10a	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ミズガヤツリ	1
	一発 処理剤	ウィナー1キロ粒剤51 (ウィナレージャンボ)	初期剤散布 7～10日後	1kg/10a (500g/10a)	水田1年生雑草、マツバイ、ホタルイ、 ミズガヤツリ、ウリカワ等	3
合計 9成分						

※残草が見られた場合は、草種に応じて後期除草剤を散布する。

ノビエの場合：クリンチャー1キロ粒剤またはクリンチャーEW(1成分)、広葉雑草(ホタルイ等)の場合：バサグラン粒剤またはバサグラン液剤(1成分)、ノビエ・広葉両方の場合：クリンチャーバスME液剤(2成分)

